

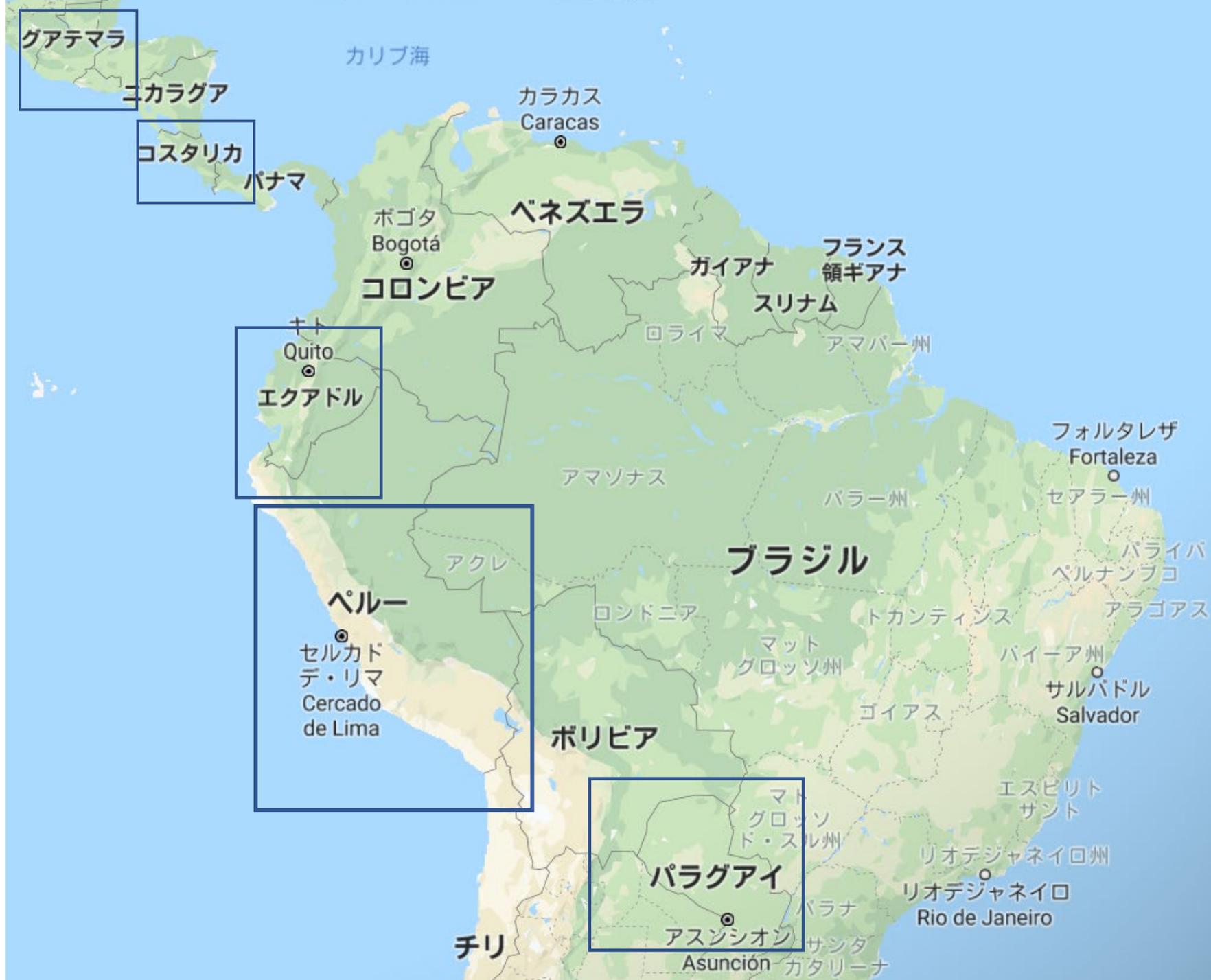
国際協力機構 (JICA)

中南米地域広域・フード
バリューチェーン強化に
おける本邦技術活用のため
の情報収集・確認調査

調査対象五か国

パラグアイ
ペルー
エクアドル
コスタリカ
グアテマラ

(株) パデコ
山森 正巳



本調査の背景

- SDGsへの貢献：中南米地域におけるFVCの構築・強化は、地場産業の育成や域内付加価値の増大を通じて、雇用創出、貧困削減に貢献。
- 日本の技術・経験の活用促進：同地域のFVC構築・強化にとって、日本の食・農産業分野の技術・製品・サービスの活用可能性、潜在的需要は高いものの、中南米地域ビジネス環境、現地企業パートナー等に関する情報の不足、距離的な制約によるビジネスマッチング機会の不足等により、日本企業の事業展開は限定的



本調査の目的

日本企業の中南米地域事業展開促進を通じて、同地域のFVCを強化する。

- ① 中南米地域のFVCの課題、投資環境、ビジネスパートナー等の情報を整理。
- ② FVCの課題解決に貢献可能な技術・製品・サービス等の情報を整理。
- ③ 日本企業が有する技術・製品・サービス等を途上国関係者に発信。
- ④ 中南米地域のビジネスパートナーを招へいし、日本の技術等を視察

中南米広域フードバリューチェーン(FVC)強化における本邦技術活用 のための情報収集・確認調査

スケジュール: 全体期間 2019年3月～2020年3月

第一次国内調査

2019年3月～4月

- ①中南米地域への事業展開に関心を持つ日本企業を対象に、同地域へのビジネスアイデア（関心を有する国、技術・製品・サービス、想定される事業概要等）、事業展開上の課題・制約要因、ODAへの期待等をヒアリング
- ②上述の結果を分析の上、調査対象国・FVCを選定
パラグアイ、エクアドル、ペルー、コスタリカ、グアテマラ

第一次現地調査

2019年5月1日～6月10日

- ①調査対象国・FVCに関する情報の収集・分析（チェーンの構成、課題、ビジネス機会、想定されるビジネスパートナー、投資環境等）

第二次国内調査

2019年6月～9月

- ①日本企業向け現地調査報告会 & 中南米FVCビジネス提案募集説明会（7/19第2回中南米分科会にて）
- ②同地域への**ビジネス提案を募集・選考（5社を想定）**
- ③提案が採択された企業との現地共同調査を企画

第二次現地調査

2019年10月～11月上旬（1週間×5ヶ国）

- ①**提案企業との現地共同調査（現地のビジネスパートナー候補を訪問し、ビジネス環境等について情報収集）**
- ②現地セミナーの開催（日本企業が有する技術、製品、サービス等を紹介）

○本調査後のフォロー

- ・ 中小企業・SDGsビジネス支援事業
- ・ 海外投融資事業
- ・ 民間連携ボランティア
- ・ 課題別研修

日本企業の中南米地域事業展開

招へい事業

2020年1月
または2月

- ①**現地企業・業界団体等による日本企業の視察、意見交換**

ベスト3

ニュージーランド (1)
シンガポール (2)
デンマーク (3)

中南米調査五か国

コスタリカ
(67)

ペルー
(68)

パラグアイ
(113)

グアテマラ
(98)

エクアドル
(123)

世界銀行
ビジネス環境ランキング
2019
全190カ国

中南米調査対象5カ国と
アジア諸国との比較

アジア諸国

中国
(46)

ベトナム
(69)

日本
(39)

インド
ネシア
(73)

フィリピン
(124)

カンボジア
(138)

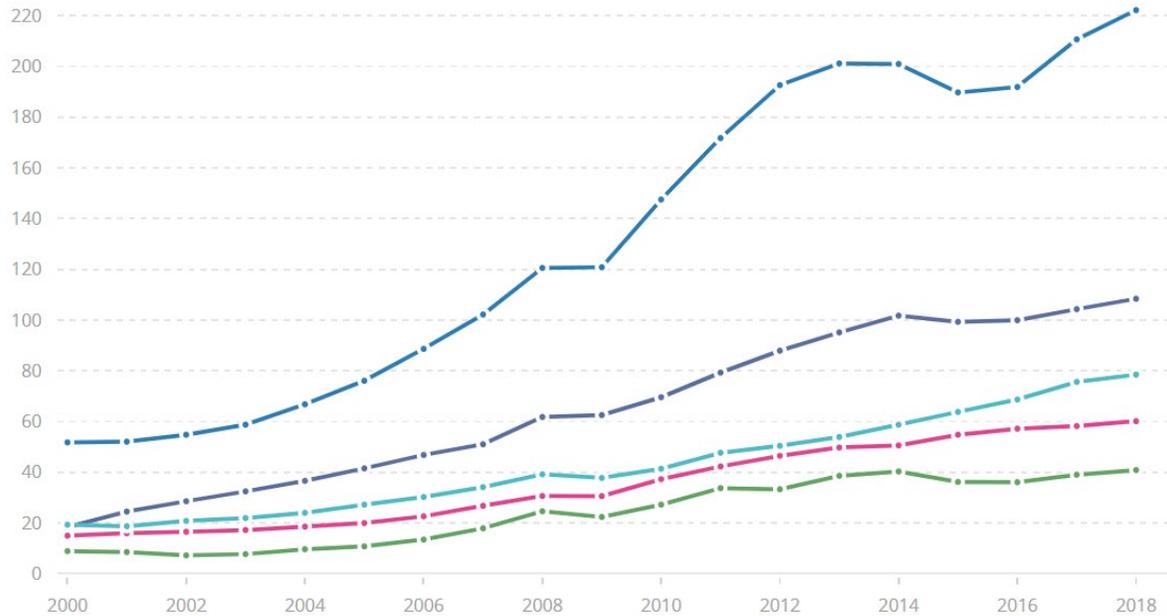
ワースト3

ベネズエラ(188)
エリトリア(189)
ソマリア(190)

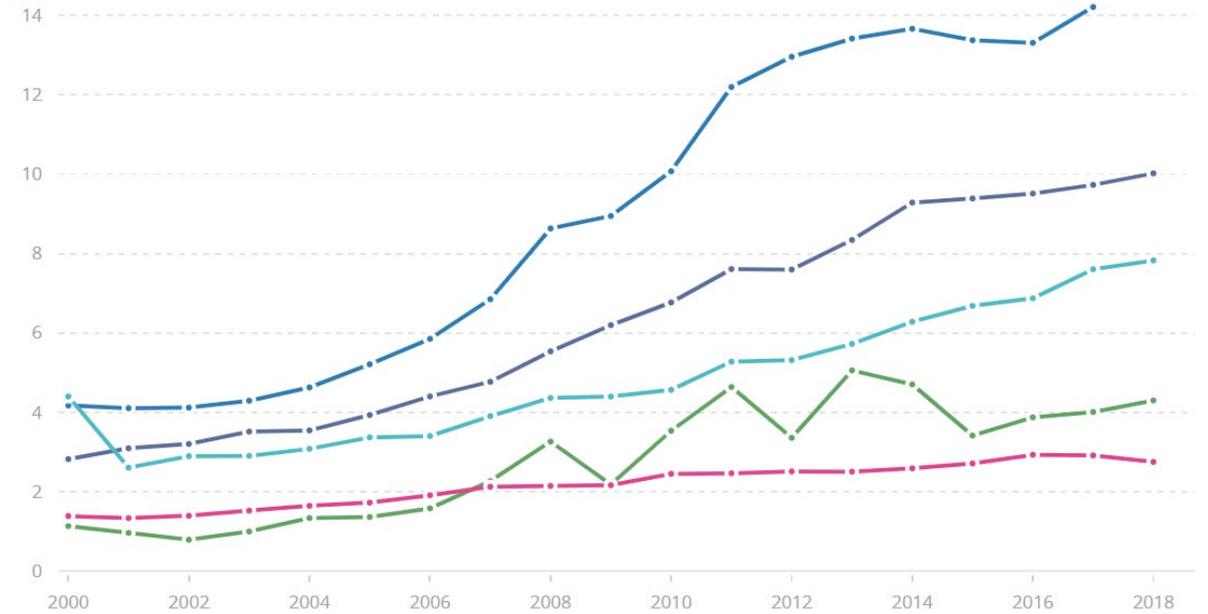
ペルー エクアドル グアテマラ コスタリカ パラグアイ

調査対象五か国では経済成長と比例し、農業・水産業・林業の生産も伸びている

国民総生産（GDP）の推移（2000年～2018年）（億ドル）



農業・水産・林業の生産（GDP）の推移（2000年～2018年）（億ドル）

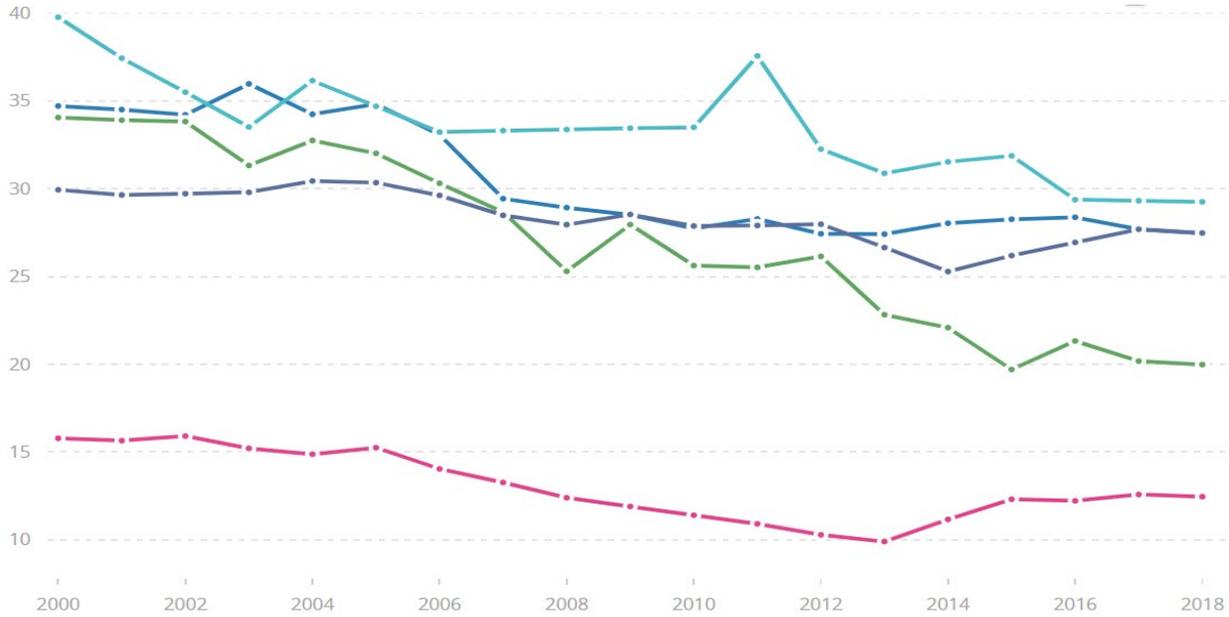


ペルー エクアドル **グアテマラ** コスタリカ **パラグアイ**

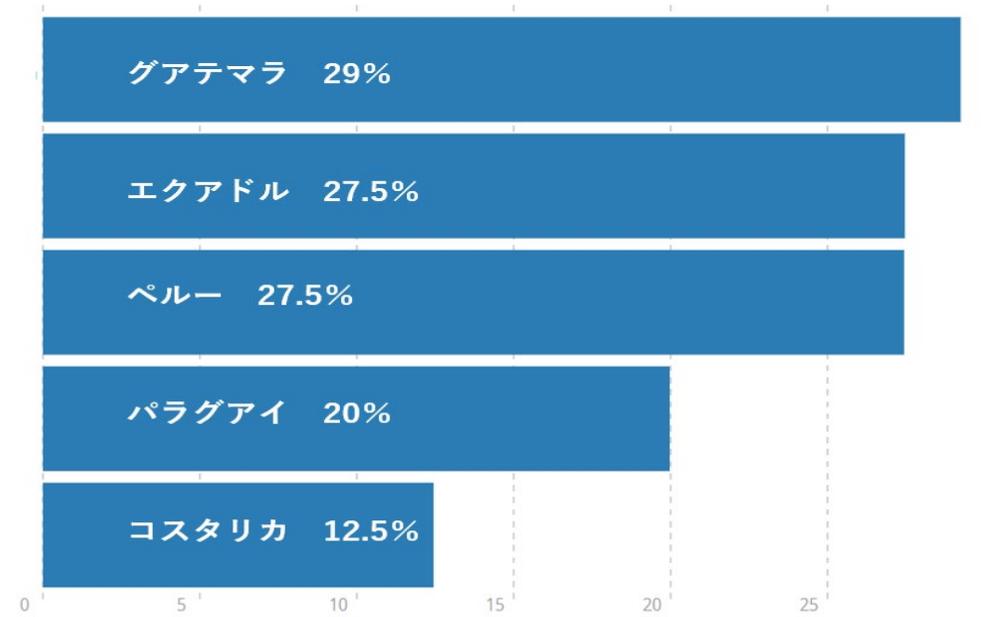
世界銀行 Open Data

一方、労働人口における農業人口の比重は減少傾向

総労働人口に占める農業人口の推移 2000年～2018年



総労働人口に占める農業人口の割合 2018年



ペルー エクアドル グアテマラ コスタリカ パラグアイ
世界銀行 Open Data/国際労働機構 (ILO)

前近代的な農業経営

多くの低賃金労働者の非効率な生産
品質を問われないコモディティ市場
低品質、低価格

農業部門：構造の変化



生産から販売まで統合されたバリューチェーン

研究開発、機械化、技術移転、マーケット戦略
特定購買層 認定・規格化 (差別化)
高品質、高価格

FVC選考の基準

- ✓ 業界に将来のビジョンがあり、技術革新・イノベーションへの投資の準備があるか
- ✓ 市場の動向、具体的・潜在的な需要を把握しているか
- ✓ バリューチェーンの課題点を認識しているか
- ✓ 必要な技術ニーズを把握しているか

高付加価値輸出農産品
バリューチェーン
(アグロインダストリー)

一次農産品の高品質化による国際市場での差別化

消費者と生産者が
直接つながる
インクルーシブ・バリュー
チェーン

開発課題

✓雇用促進、労働状況の改善

✓女性の正規雇用

✓環境対策・保全

✓土壌改善、水質保全

✓食糧増産

✓農業セクターの技術革新

✓産業開発

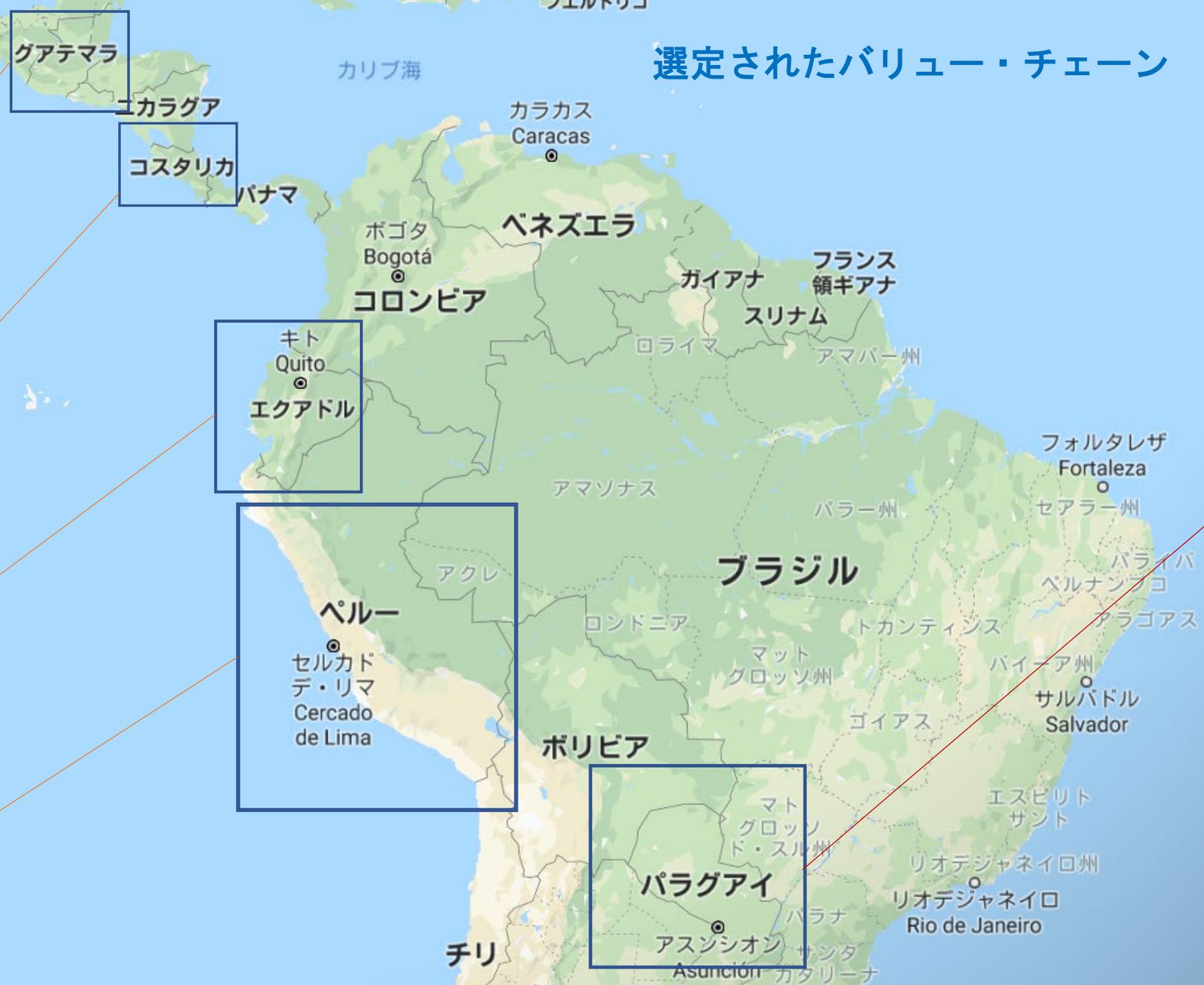


日本企業の技術

国内調査でインタビューに応じていただいた日本企業（業種）

セクター	分野	合計
農業（21社）	農業技術/農業機械	8
	土壌改良・品種改良	3
	加工技術	6
	スマート農業（気象情報含む）	3
	衛生/殺菌	1
水産（6社）	水産養殖	4
	衛生/殺菌	2
畜産（2社）	衛生/殺菌	1
	加工技術	1
物流/パッケージ （12社）	マーケティング・販売	3
	パッケージ（測定/選別含む）	7
	コールドチェーン	2
合計		41

選定されたバリュー・チェーン



グアテマラ
コーヒー
輸出野菜
カルダモン

コスタリカ
パイナップル
バナナ
コーヒー

エクアドル
カカオ
ブロッコリー
養殖エビ

ペルー
輸出生鮮農産品
コーヒー
アルパカ繊維

パラグアイ
ゴマ
肉牛
有機砂糖

各FVCに適応可能な技術（農業）

	有機堆肥 雑草管理	汚染対処法	害虫予防	土壌改良	品種改良/種子増 産・遺伝子管理	耕作機械開 発・購入	加工・梱包機 器/技術	スマート農業	トレーサビリ ティ
パラグアイ									
食用ゴマ				○	○	○			
有機砂糖	○			○					○
グアテマラ									
生鮮輸出野菜	○			○	○	○	○	○	
コーヒー	○		○	○				○	○
カルダモン	○		○	○	○				
コスタリカ									
コーヒー	○		○	○		○		○	○
バナナ			○	○	○			○	
パイナップル	○	○	○	○					
ペルー									
コーヒー	○		○	○		○		○	○
生鮮輸出果物・野 菜				○	○	○	○	○	
エクアドル									
カカオ豆	○	○		○	○				○
ブロッコリー	○			○	○		○		

各FVCに適応可能な技術（畜産）

	肉質の判別	ITによる個体管理 トレーサビリティ	品種改良	紡績技術
パラグアイ				
肉牛	○	○	○	
ペルー				
アルパカ繊維		○	○	○

各FVCに適応可能な技術（養殖）

	品種改良	養殖池の土壌改善	餌の開発
エクアドル			
養殖エビ	○	○	○

パラグアイ

大豆と肉牛の主要産品に頼る農業国(GDPの17.9%、総輸出額の75%)

農業生産の動向が経済成長に大きな影響を与える。輸出農産品の生産性の向上、品目多様化が課題。

日系移民 約一万人

日系移住地では日系移民が農業で確固たる地位を築いており、日本企業との連携を模索している。



アルゼンチン、ブラジル、ボリビアに囲まれた内陸国

国内総生産 (GDP)
408億ドル

人口
700万人

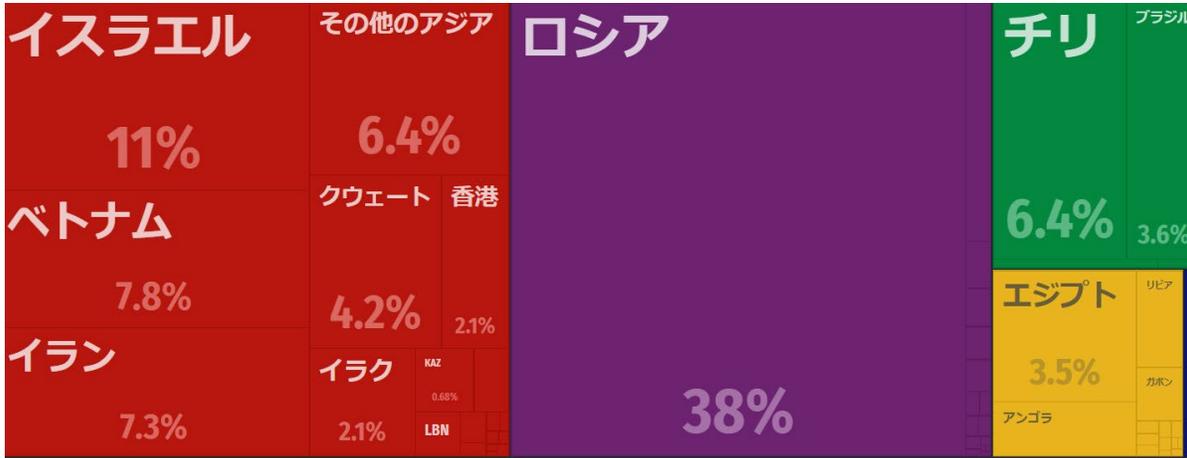
面積
40.7万平方キロメートル

農業部門生産高
43億ドル

GDP成長率
3.5% (2018)

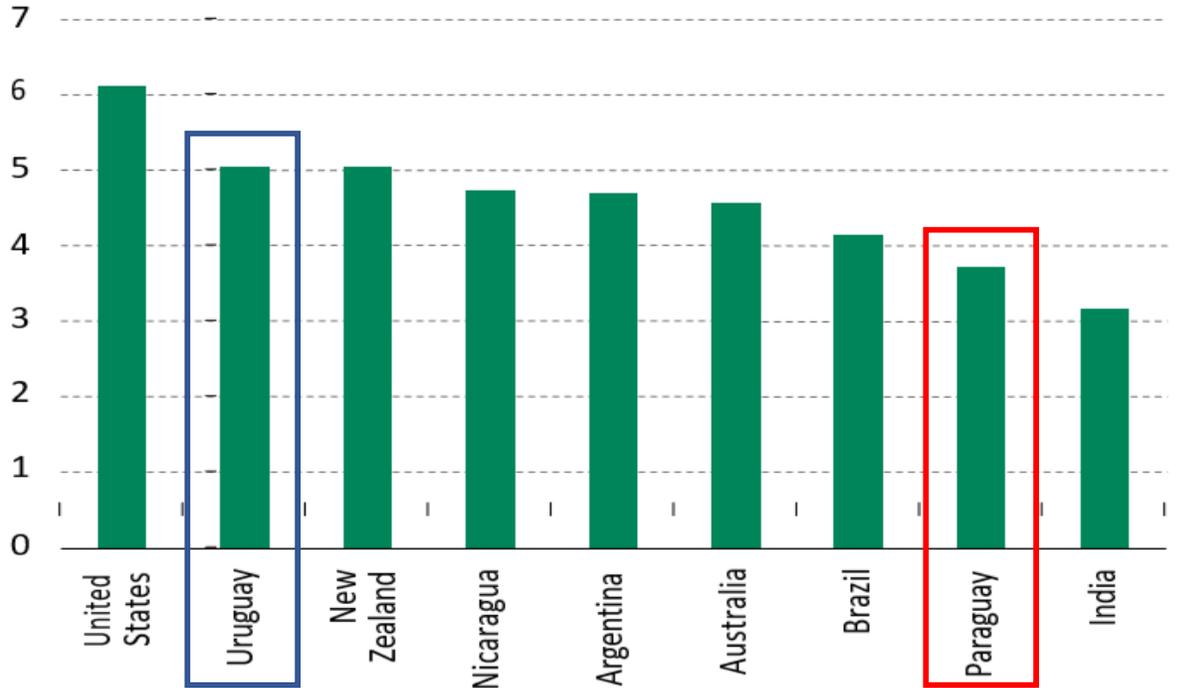
パラグアイの肉牛産業（生産規模が同レベルのウルグアイとの比較）

パラグアイの冷凍肉牛の輸出先（2017）



パラグアイの肉牛の国際価格は、先進国（EU、米国）の市場を確保するウルグアイの肉牛よりキロ当たり30%近く低い。

ウルグアイの冷凍肉牛の輸出先（2017）



主要肉牛生産国：価格の比較（米ドル/キロ）（2016年）

■ パラグアイの肉牛産業の課題

規格の厳格な先進国
プレミアム市場

その他の国際市場

厳格な検疫
衛生基準
商品の規格

飼料・機械・人工授精などの投入
(Inputs)

肉牛生産者
牛の育成
個体増産
栄養管理

肉質向上のインセンティブの欠如

トレーサビリティの不備

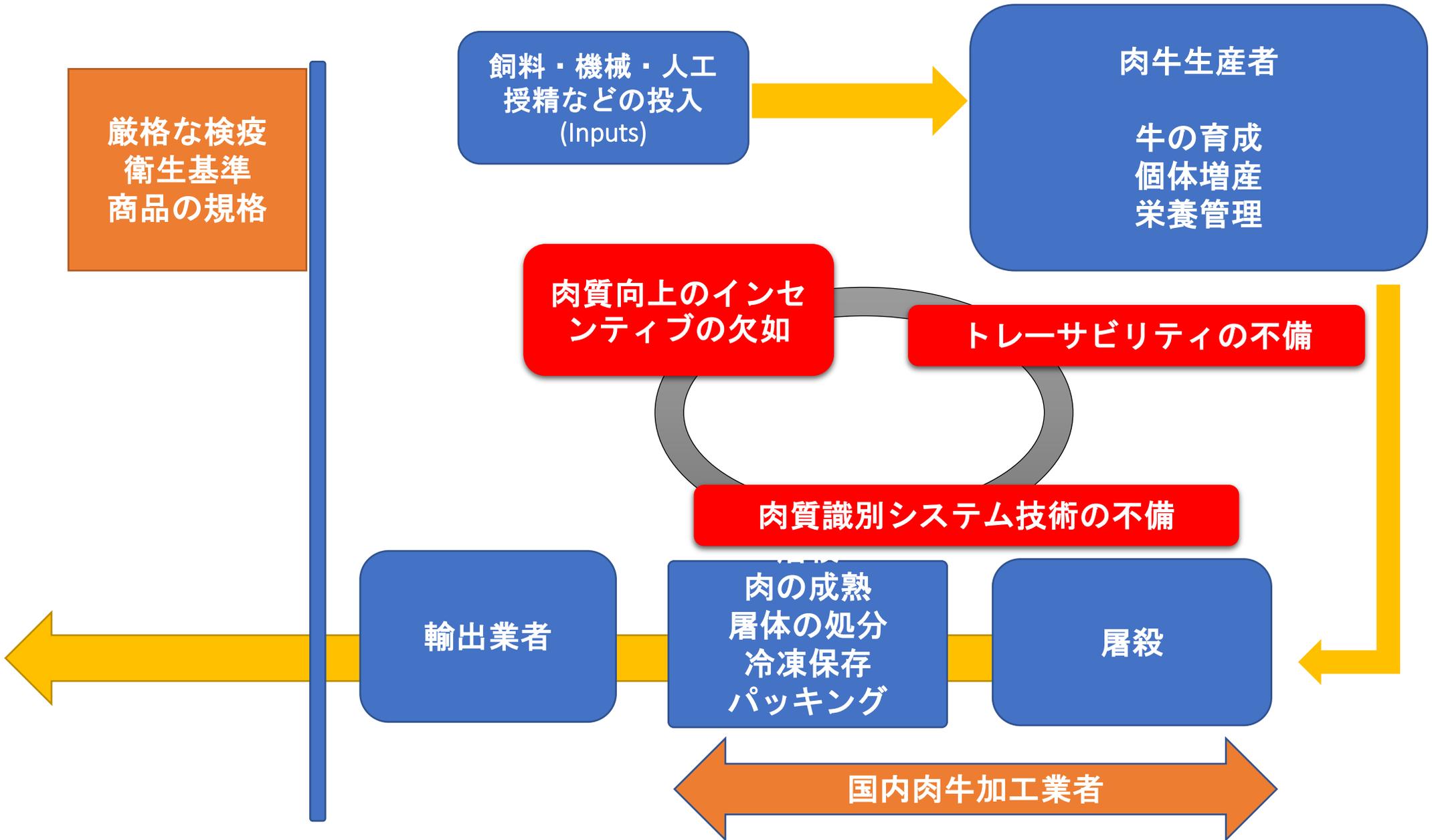
肉質識別システム技術の不備

輸出業者

肉の成熟
屠体の処分
冷凍保存
パッキング

屠殺

国内肉牛加工業者



肉牛 バリューチェーン

現状と課題

年間生産量は62万トン。世界で8番目の肉牛輸出国、60%が海外に輸出されている。

栄養不良、生殖疾患、幼牛の死亡率の高さに起因する個体数の減少。

個体トレーサビリティ、肉質の判別技術が浸透されておらず、先進諸国のプレミアム市場への参入に課題を残す。

肉質の識別技術：

- ✓ プレミアム・ビーフとして流通できる高品質肉牛の識別技術・システムの情報が欲しい（肉牛加工処理企業）

肉牛処理施設：

- ✓ 肉牛処理後の冷蔵・冷凍管理の効率化、システム管理、省エネ技術に興味がある（肉牛加工処理企業）

牛の個体管理の技術とトレーサビリティ

- ✓ パラグアイの肉牛の資源管理はブロックごと。プレミアム市場に参入するには流通の過程で個体番号が引き継がれるトレーサビリティ・システムの浸透が必要。

パラグアイ FVCの課題と技術ニーズ

ゴマ バリューチェーン

現状と課題

パラグアイ産ゴマはその品質の高さから日本市場でも高い評価。小規模農家重要な収入源。
ゴマ農家の高齢化が進み、労働力不足が深刻。

栽培・生産管理

- ✓ 機械化による栽培・収穫の効率化が急務。収穫時にゴマ種子を効率的に取り出す機器、夾雑物を効率よく分離させる機械があれば、導入を検討したい（日系人輸出業者）

土壌保全・改良

- ✓ 連作障害を回避するための微生物等による土壌改善の知識が欲しい。（日系人輸出業者）

有機砂糖 バリューチェーン

現状と課題

有機砂糖生産量では世界1位(2017年)。手作業に頼る非効率な生産形態および有機栽培には欠かせない有機堆肥の不足で生産量減少。

- ✓ 有機肥料が十分確保できない。サトウキビを絞った後の残渣を短時間で有機的に堆肥化する技術を探している
- ✓ 連作障害を回避するための微生物による土壌改善の知識が欲しい。

ペルー

安定した経済運営

2000～2015年のペルーの平均GDP成長率は年間平均5.3%。

農業輸出産業の急速な成長

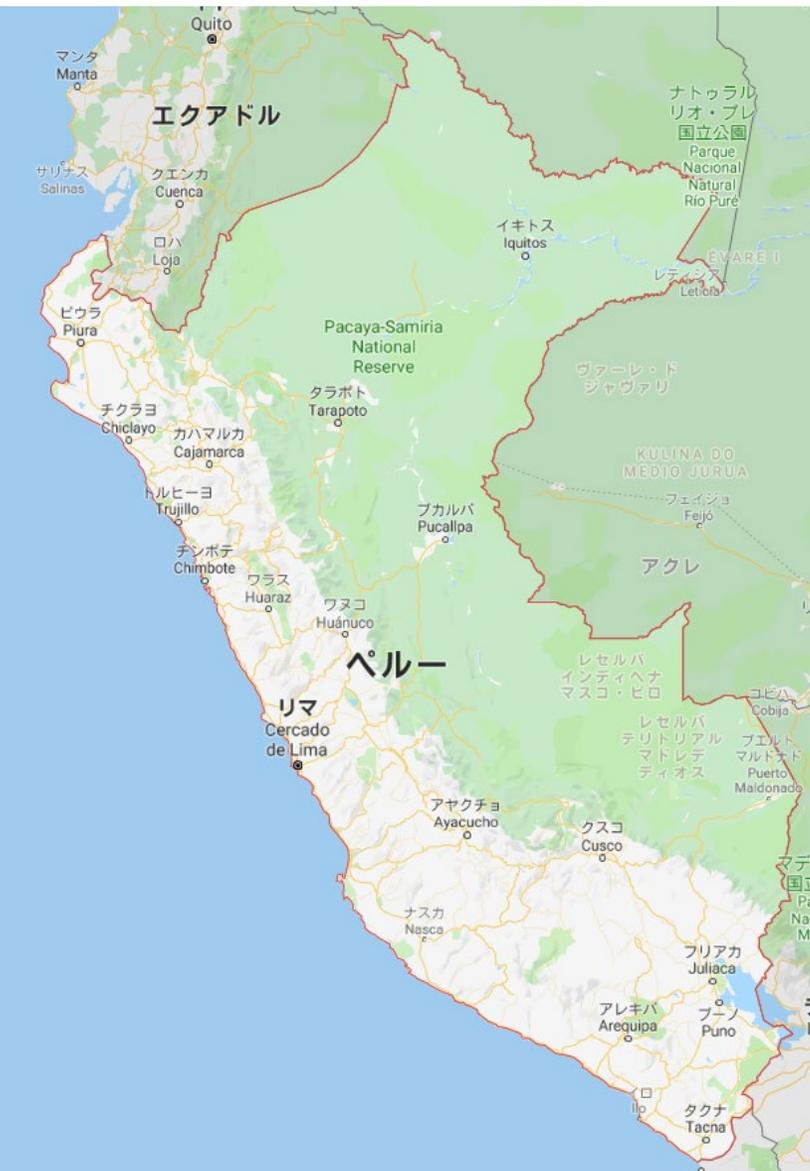
農業輸出産業セクターの2000年から2016年までの平均成長率は12.5%

生鮮野菜・果物輸出産業の台頭

沿岸部地域の農地帯には、アスパラガス、アボカド、ブドウに代表される高付加価値の輸出農産物産業（アグロインダストリー）が発達

10万人の日系人

日系移民120周年(2019) 日系食文化が開花。



西部の乾燥した沿岸平野、中央山岳地帯、東部のアマゾン低地と極めて異なった地理的・経済的地域圏を持つ

国内総生産 (GDP)

2,222億ドル

人口

3,200万人

面積

128.5万平方キロメートル

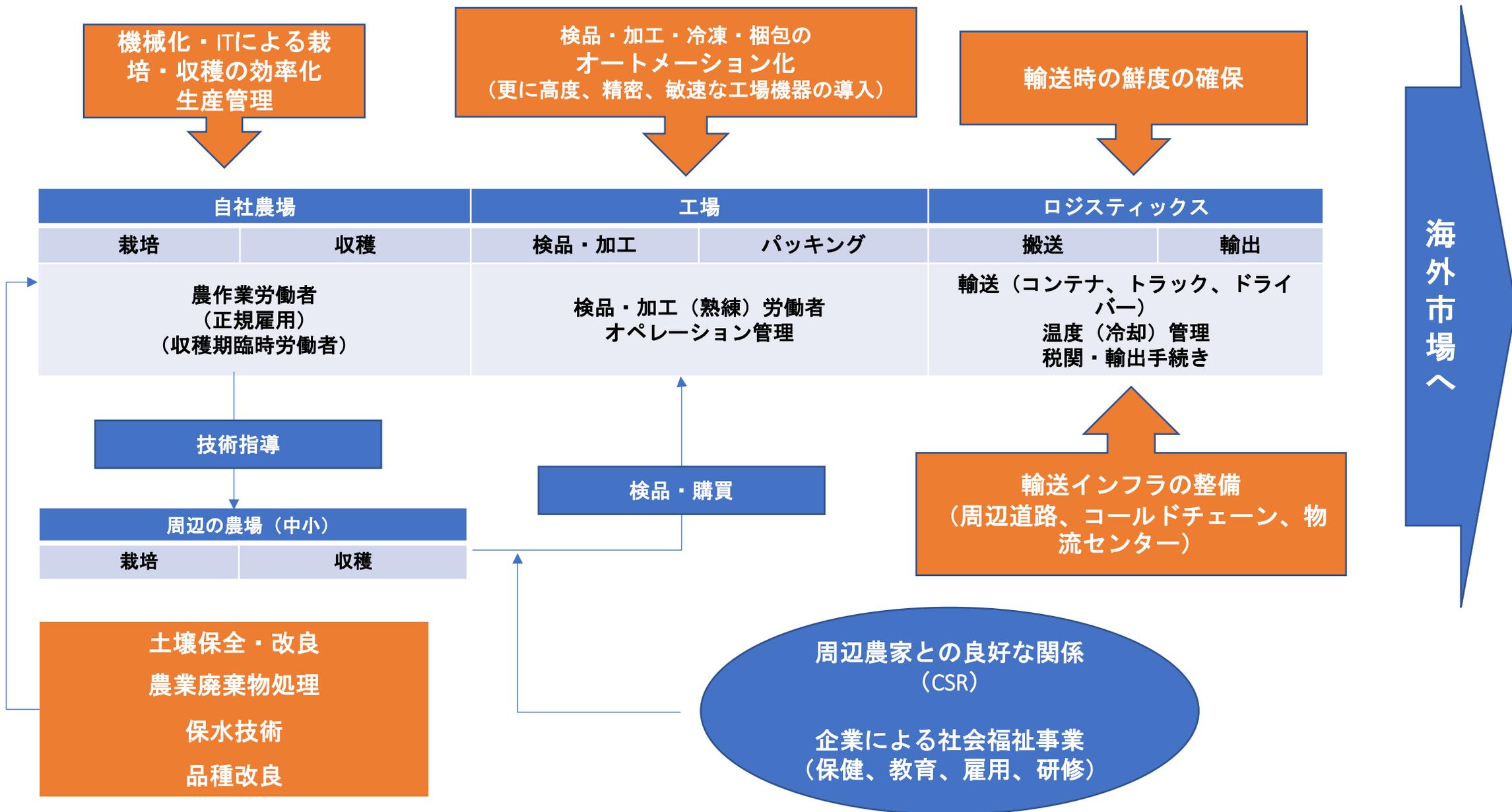
農業部門生産高

142億ドル

GDP成長率

4.0% (2018)

■ ペルーのアグロ・インダストリー：技術革新と課題



アグロ・インダストリー・バリューチェーン

現状と課題

平均年成長率12%。生鮮野菜・果物を鮮度を保ち先進諸国の市場（食卓）へ届ける技術の向上

生産されている品目：アスパラガス、アボカド、マンゴー、ブドウ、ブルーベリー、柑橘類（薩摩ミカンを含む）など。

栽培：

✓ ピンポイントな気象情報・予測、分析・解析のサービスに興味がある

鮮度：

✓ 日本への柑橘類の輸出を模索している。長時間低温を維持できる梱包資材や輸送技術、常温輸送に適した加工技術を探している。加工（ジュース）に向けて日本のJoint Ventureを求める。

加工

✓ 選別過程で正確な計量梱包を高速で行える機械、不良品を除去するための機械に興味

✓ センサーによる瓶詰めの際の不良品の検査が必要

梱包：

✓ アジアのマーケットのデマンドに合わせたデザイン性や機能性の高い梱包機械を購入したい。

土壌改良・環境保全：

✓ 連作障害を回避するための微生物による土壌改善の知識が欲しい。

保水・水質管理：

✓ 加工工場では大量の水を使う。工場水のリサイクリング・システムの技術を知りたい。

✓ 保水技術、水質管理の先端技術を知りたい。

ペルー FVCの課題と技術ニーズ

アルパカ繊維 バリューチェーン

現状と課題

2018年のアルパカ繊維の輸出高は5300万ドル、前年比の24%の成長を記録。
個体を識別するトレーサビリティがなく、高級素材の安定的な供給を妨げている。

- ✓ 毛の刈り取り機の普及、刈り取った繊維品質の評価・選別・紡績技術に興味がある。
- ✓ アルパカ個体の健康管理システム、個体番号とを一致させるトレーサビリティ・システム（ブロックチェーン）の構築を検討している。（COOPECAN）
- ✓ 品種開発の技術：アルパカの精子を凍結保存するための技術、品種のDNAの解析への協力を歓迎する（PACOMARCAアルパカ遺伝子研究所）
- ✓ 日本のアパレルマーケットへの進出に協力する日本企業を探している。

エクアドル

農業部門の重要性

エクアドルの農業部門はGDPの約10%。農業加工部門も加えると14%。

豊富な雨量、気候の多様性

高山地帯の火山灰層からなる肥沃な土地を活かしたブロッコリーなどの輸作物の急成長。沿岸部に広がる大規模農地で栽培されるバナナ、カカオなどの伝統的な換金作物によって多くの外貨収入を獲得してきた。

養殖エビの生産が好調

石油に次ぐ第2位の輸出品目（輸出金額ベース）に成長。

ドル貨幣経済

輸出産業には安定性があるが、隣国よりも輸入品、労働コストが割高。



赤道直下の国。ペルー同様アマゾン低地とアンデス山岳地域、沿岸地域は高温多湿

国内総生産（GDP）
1,083億ドル

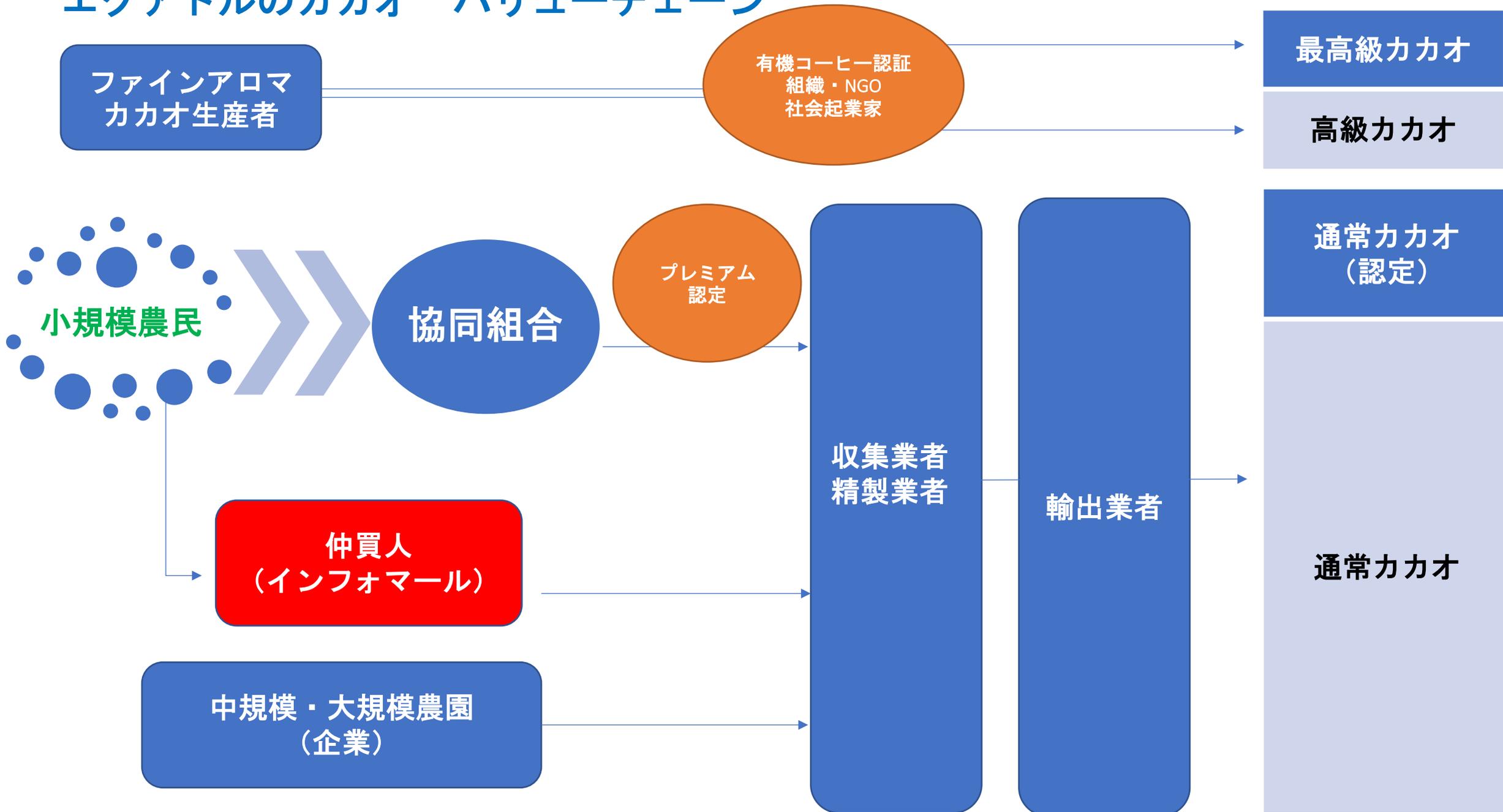
人口
1700万人

面積
25.6万平方キロメートル

農業部門生産高
100億ドル

GDP成長率
1.1%（2018）

エクアドルのカカオ バリューチェーン



エクアドル FVCの課題と技術ニーズ

カカオ・バリューチェーン

現状と課題

017/18年のカカオ豆生産量は約24万トン、この10年で生産量は3倍（現在生産量世界7位）。その2%は最高級のファインアロマ・カカオ。エクアドル政府はカカオFVCの競争力強化策に今後10年間で8,000万ドルの投資を計画。

- ✓ カカオのプレミアム認定を得るための技術支援、特に業界レベルのトレーサビリティ・システムの構築の支援。
- ✓ 最高級カカオを産出する古木を維持するための樹木管理技術、DNA管理技術に興味がある（Republica del Cacao）。
- ✓ 連作障害を回避するための微生物による土壌改善の知識が欲しい。
- ✓ 日本の市場に参入したい。日本のチョコレート業界とコンタクトを取りたい。

ブロッコリー・バリューチェーン

現状と課題

2016年の生産総量は7万2千トン。1万人以上の雇用を創出する一大農業ビジネスに成長。日本に輸入される冷凍ブロッコリーのおよそ4割がエクアドル産

- ✓ ピンポイントな気象情報・予測、分析・解析のサービスに興味がある
- ✓ ブロッコリーの冷凍処理・保存の際の省エネ・低コストの技術、機械に興味がある

コスタリカ

中米の中進国

一人当たりのGDPは11,600ドル

輸出農産品は先進国プライム市場での競争力を発揮

パイナップルの生産は世界一位。バナナ、コーヒーは米国、欧州のプライム市場で高価格で取引。

業界団体・大学が農産品バリューチェーンをサポート

官民合同でコーヒー協会、バナナ協会を運営。研究センターを持ち、海外の大学と提携



観光・環境立国。25%の国土が自然保護区。環境保護政策は農地拡大の制約となる

国内総生産（GDP）

601億ドル

人口

500万人

面積

5.1万平方キロメートル

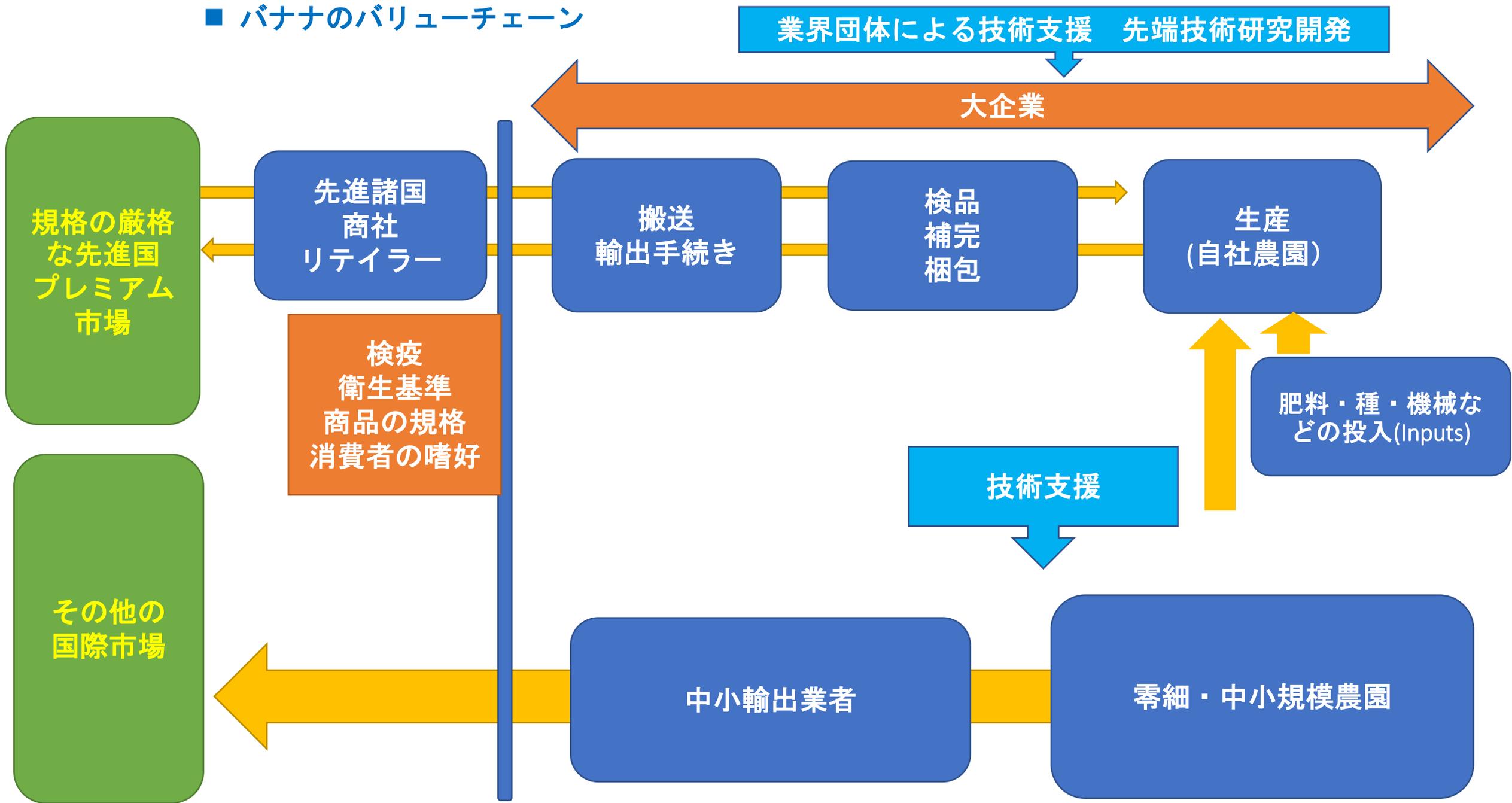
農業部門生産高

28億ドル

GDP成長率

2.66%（2018）

■ バナナのバリューチェーン



バナナ・バリューチェーン

現状と課題

2018年のバナナ輸出総量は、227万トン、世界で第4番目のバナナ輸出国。輸出先は主に欧州、及び米国。小国であるコスタリカが国際バナナ市場で競争力を維持するには生産性に大きな影響を与える病害や土壌劣化、および品質の向上を可能にする先端技術の導入が不可欠

栽培：

- ✓ 広大なバナナ農園の管理を可能にするドローンや気象衛星情報を活用したIT技術に興味がある。
- ✓ ピンポイントな気象情報・予測、分析・解析のサービスに興味がある。
- ✓ 農薬に依存しない雑草管理・病虫害対策の技術を知りたい。

土壌改良・環境保全：

- ✓ 連作障害を回避するための微生物による土壌改善の知識が欲しい。
- ✓ バナナ残渣（皮）の処理、有効活用、堆肥化の技術を探している。

保水・水質管理：

- ✓ 雨水の利用と管理、水質管理の先端技術を知りたい。

コスタリカ FVCの課題と技術ニーズ

パイナップル・バリューチェーン

現状と課題

パイナップルの生産高は世界一位、2017年には300万トンに達した。1,330のパイナップル生産者がおり、そのほとんど（1,200）が国内の小規模生産者。農薬散布による農園内の労働者への健康被害、廃棄物から発生する蠅の周辺の家畜への被害が社会問題化。近年の国際市場のパイナップルの値崩れで一部の生産者は栽培面積を縮小。

土壌改良・環境保全：

- ✓ パイナップル収穫後に大量に出る残渣の処理、堆肥化の技術を探している連作障害を回避するための微生物による土壌改善の知識が欲しい。

栽培：

- ✓ 農薬に依存しない病害虫対策の技術を探している

グアテマラ

農業部門の重要性

農地の総面積は35.4%、農業従事者は全人口の30%

米国市場との距離の近さ

首都近郊の高級野菜輸出産業は年8%の成長を遂げ、米国市場を始め、カナダ、欧州、メキシコの市場でシェアを伸ばしている。

開発課題

農業従者の8%にあたる大規模農家が農地の92%を占め、残りの土地は平均0.7ヘクタール未満で、主に零細農家の自給自足農業によって営まれている



南部、中央部の高地、北部の低地と沿岸部の平野地帯に分かれる。

国内総生産（GDP）
785億ドル

人口
17.2百万人

面積
10.9万平方キロメートル

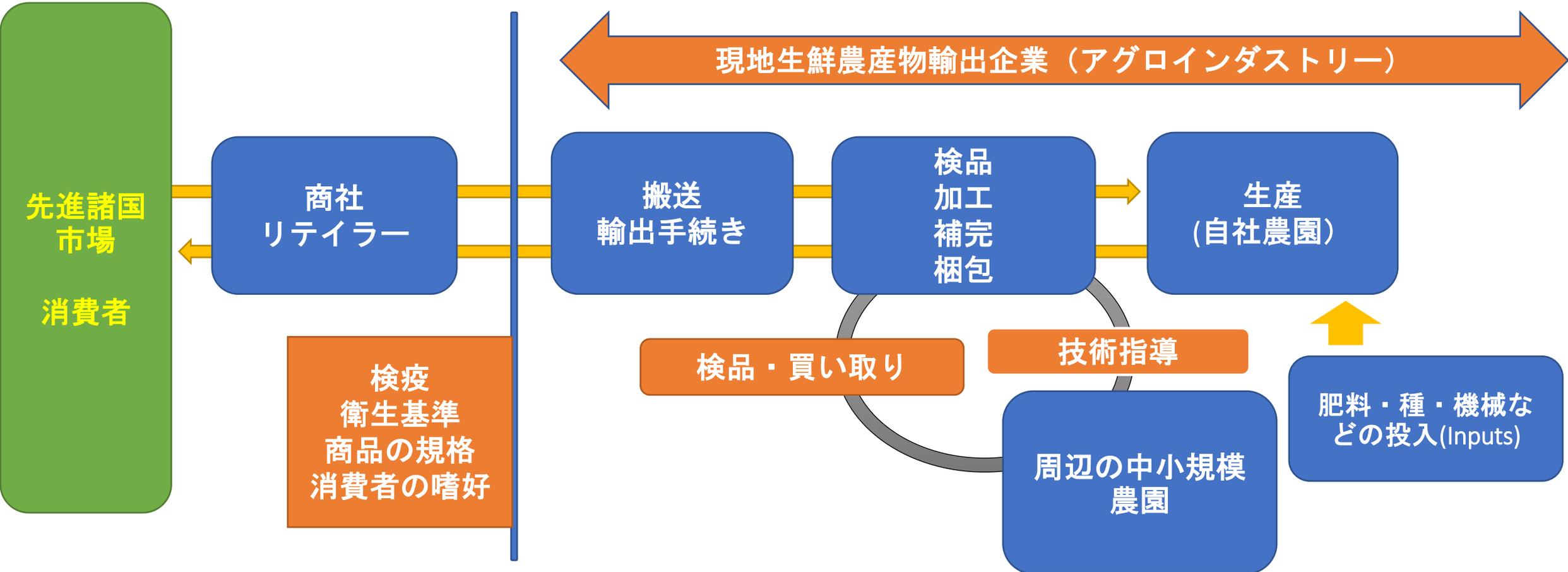
農業部門生産高
78億ドル

GDP成長率
3.14%（2018）

■ グアテマラ アグロ・インダストリーのバリューチェーン

技術革新

	現地バリューチェーン
先進諸国の消費者の高いデマンド	輸血量、鮮度の確保・規格の統一
商社、大手販売店	現地企業がバリューチェーンを統合



高級輸出野菜・バリューチェーン

現状と課題

高地で栽培されたエンドウ豆、インゲン豆、ズッキーニ、ベビーコーン、ミニニンジンなどは、高級野菜として主に米国のプレミアム市場で販売されている。3,000人近くの直接雇用と4,500人以上の間接雇用を生んでおり、年平均8%の成長。先進諸国市場の規格の厳格化に伴い、有機栽培認定と更新、商品開発、生産、加工および梱包、輸送などのチェーンの各段階での向上が必要。

土壌改良・環境保全：

✓ 連作障害を回避するための微生物による土壌改善の知識が欲しい。

保水・水質管理：

✓ 乾期に備え、保水技術・雨水の利用と管理、水質管理の先端技術を知りたい。

品種改良：

✓ 周辺農家が納入する農産品の30%が規格外。サイズ、色、量などを安定させる種に興味がある

栽培：

✓ ピンポイントな気象情報・予測、分析・解析のサービスに興味がある

加工

✓ 食品ロスを減らすための加工技術（缶詰、瓶詰、ジュース）などの技術に興味

カルダモン・バリューチェーン

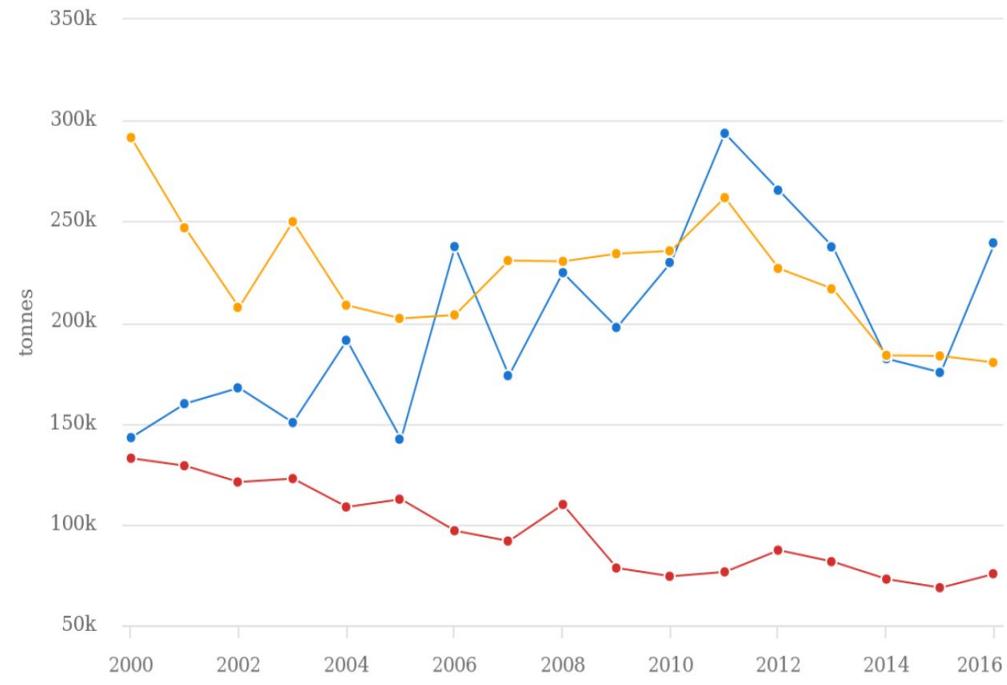
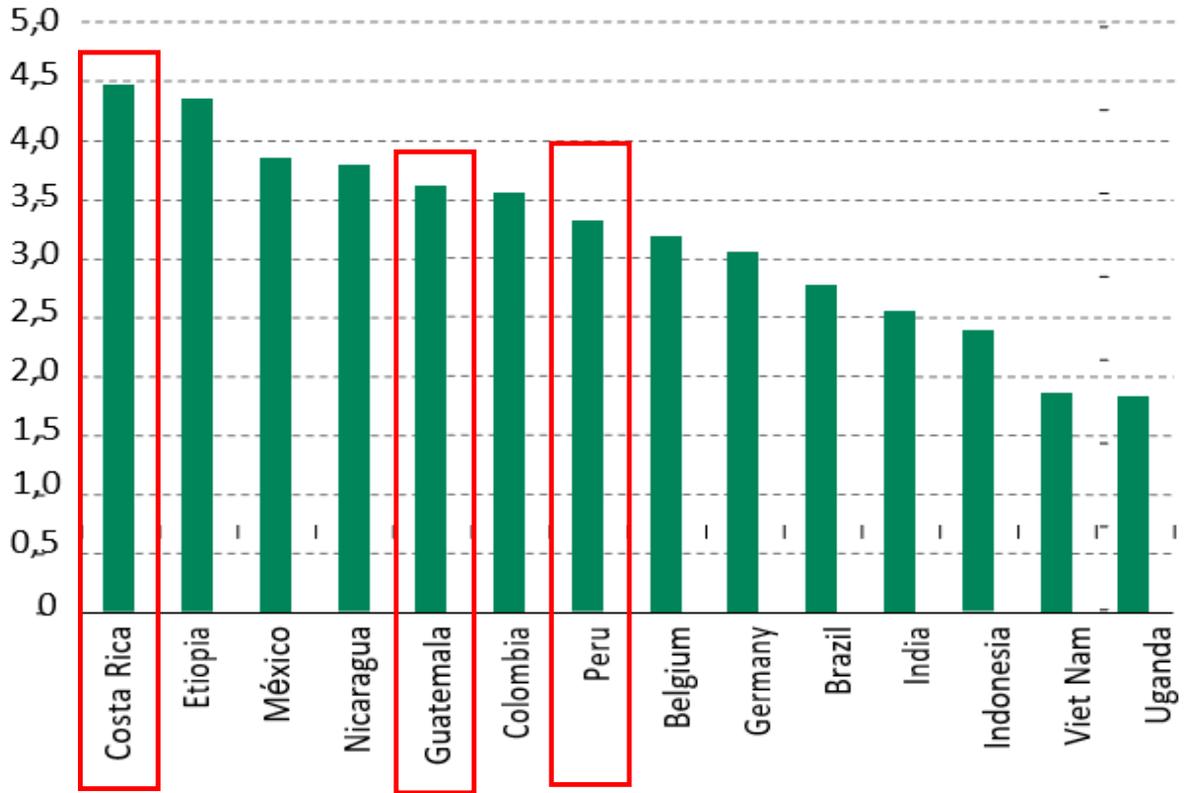
現状と課題

グアテマラはカルダモン生産世界第一位。年間約35,000トンを輸出している。これは全世界の供給量の50%に当たる。2014年、農業害虫、アザミウマがグアテマラで大量発生し、カルダモンの収穫に大きな被害を与えた。

- ✓ アザミウマ（害虫）の防除ができる天然由来成分の抽出・散布技術に興味がある（協同組合）
- ✓ カルダモンの乾燥を薪で行っている。安価でエネルギー消費の少ないプロパンガスの乾燥機器の購入を検討している（協同組合）
- ✓ 連作障害を回避するための微生物による土壌改善の知識が欲しい。（協同組合）

コーヒー：コスタリカ、グアテマラ、ペルーの比較

コーヒーの輸出総量の変動（トン）（2000年～2017年）
 コスタリカ グアテマラ ペルー



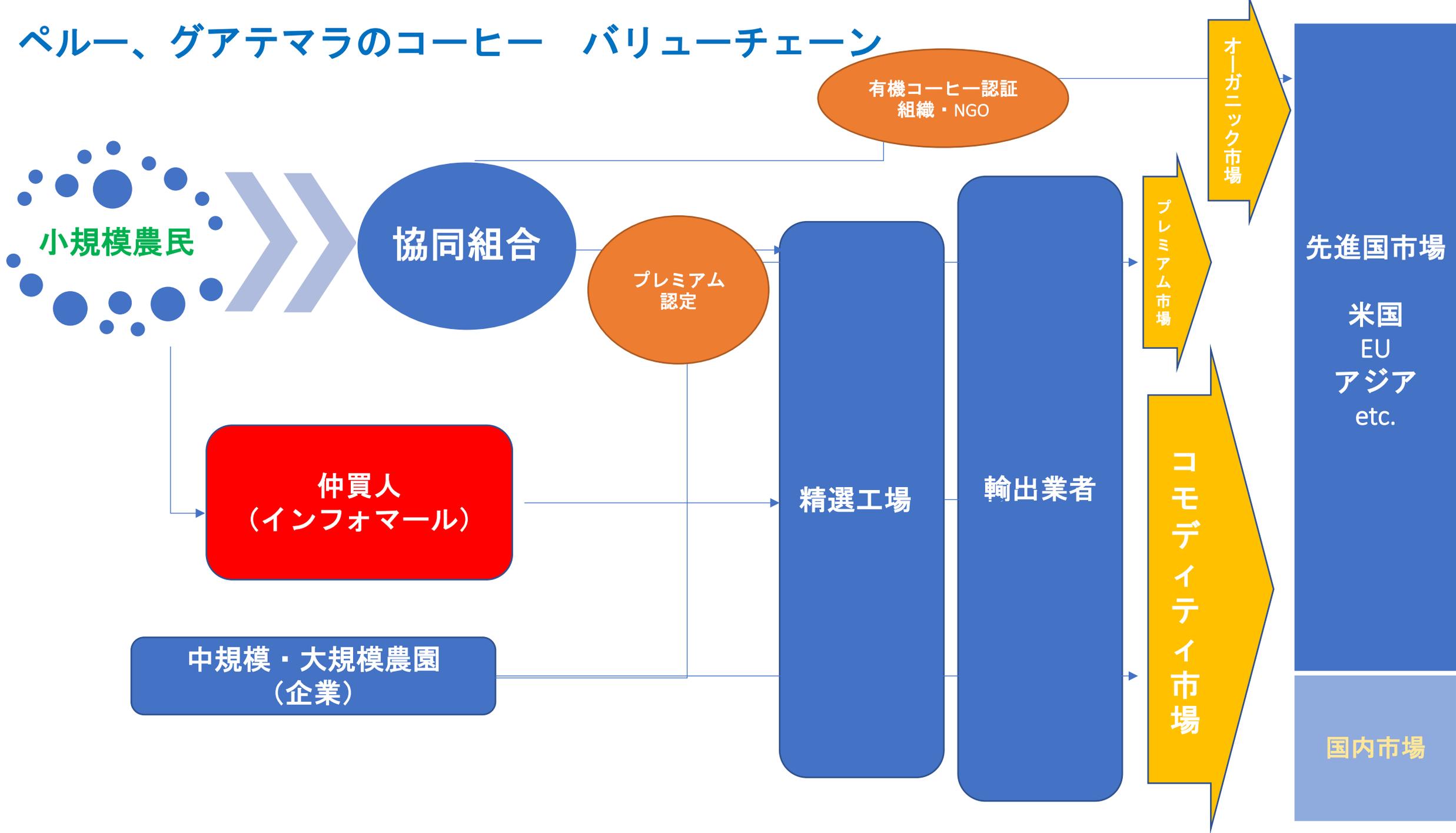
FAO統計データ 2019

- ✓ コスタリカのコーヒー1キロ当たりの価格はグアテマラの価格より28%、ペルーの価格より36%高い。
- ✓ コスタリカとグアテマラのコーヒーの生産量は減少傾向。
- ✓ コモディティ市場価格変動、およびコーヒーさび病の蔓延はコーヒー業界に大きな影響を与えている。

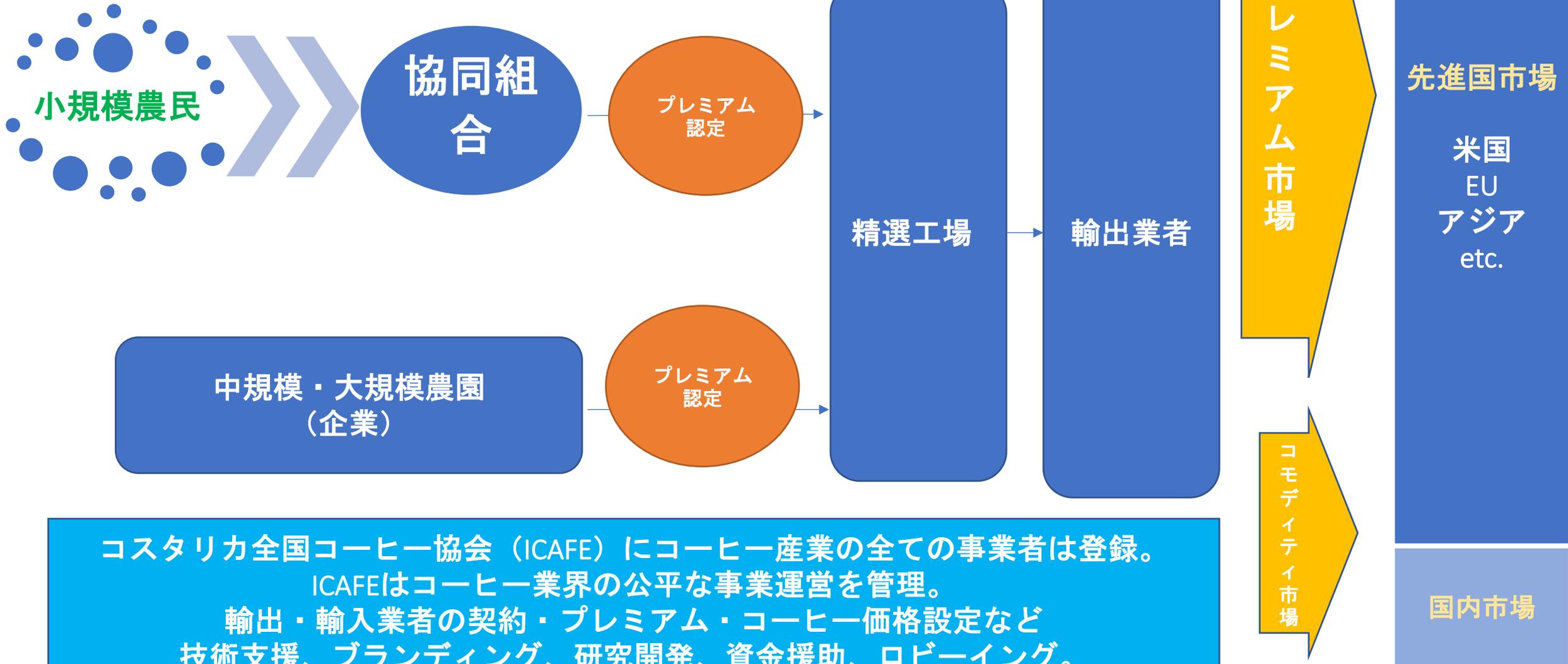
主要コーヒー生産国：価格の比較（米ドル/キロ）（2016年）

ECLAC: International Trade Outlook for Latin America and the Caribbean 2017

ペルー、グアテマラのコーヒー バリューチェーン



コスタリカのコーヒー バリューチェーン



栽培・生産管理

- ✓ 全国に気象ステーションを設け、ドローンを用いた上空からの全国のコーヒー農園の栽培状況をモニタリングしている。伝染病の兆候の監視、農家への警告システム普及のパイロットを実施。伝染病予測の更なる正確さを高めるためのAI技術に興味（ANACAFE グアテマラ）。

生産者と消費者をつなぐトレーサビリティ：

- ✓ 生産者・生産地の情報や栽培履歴などのデータベース化、収穫してから販売されるまでの各工程の管理を基に海外の消費者が生産者の情報を参照できるトレーサビリティ・システム、情報を一般公開するサイトを計画中。IT企業からの新たな提案、協力を募っている（ICAFE コスタリカ）。

機械化：

- ✓ 木に振動を与えることでコーヒー豆の果実を枝から分離するなど、コーヒー豆を効率よく収穫するための振動機器を試してみたい(グアテマラ、コスタリカ)。

有機栽培

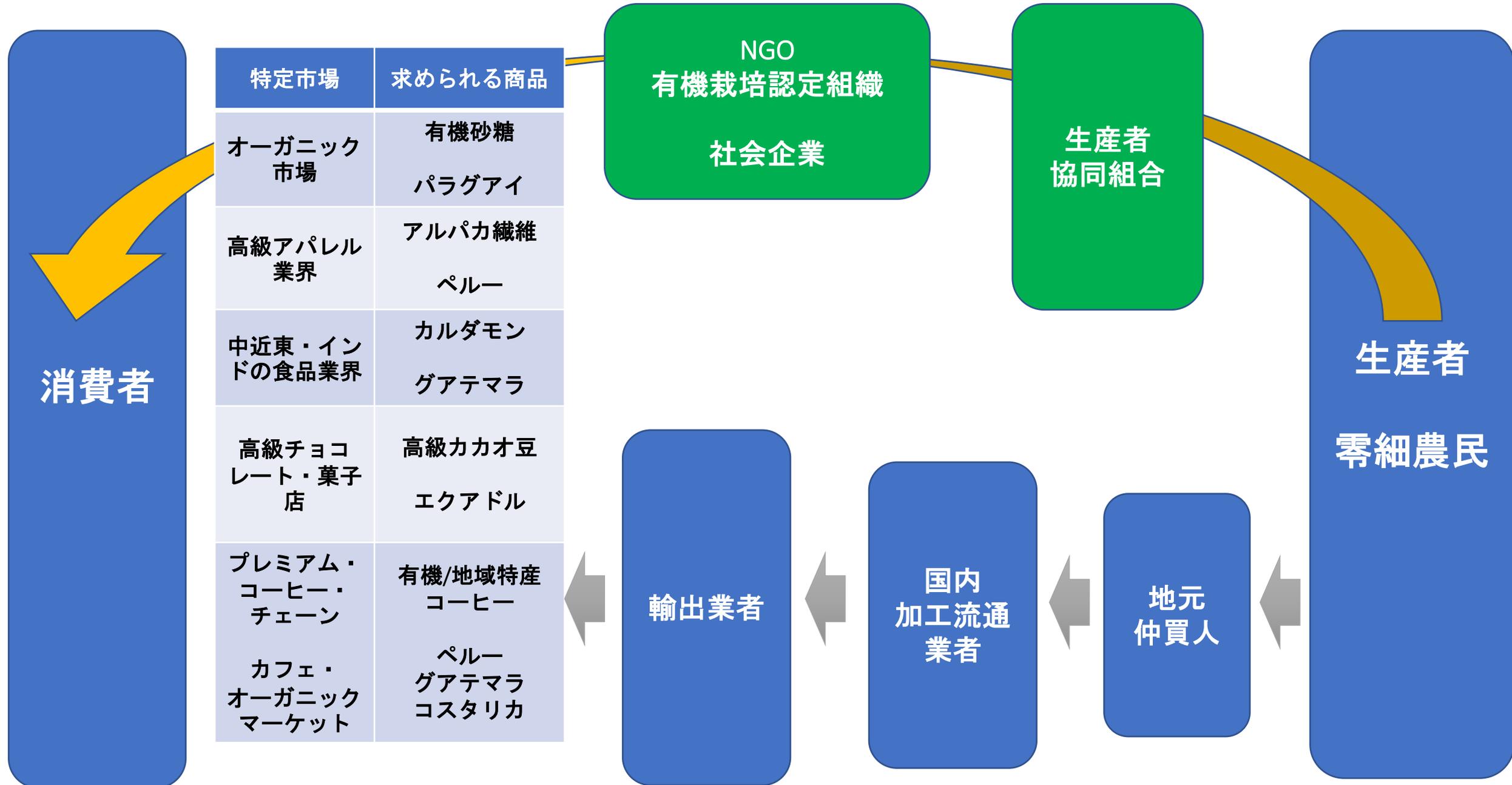
- ✓ 化学肥料を使わない微生物による土壌改善の知識が欲しい（グアテマラ、ペルー、コスタリカ）

品種改良

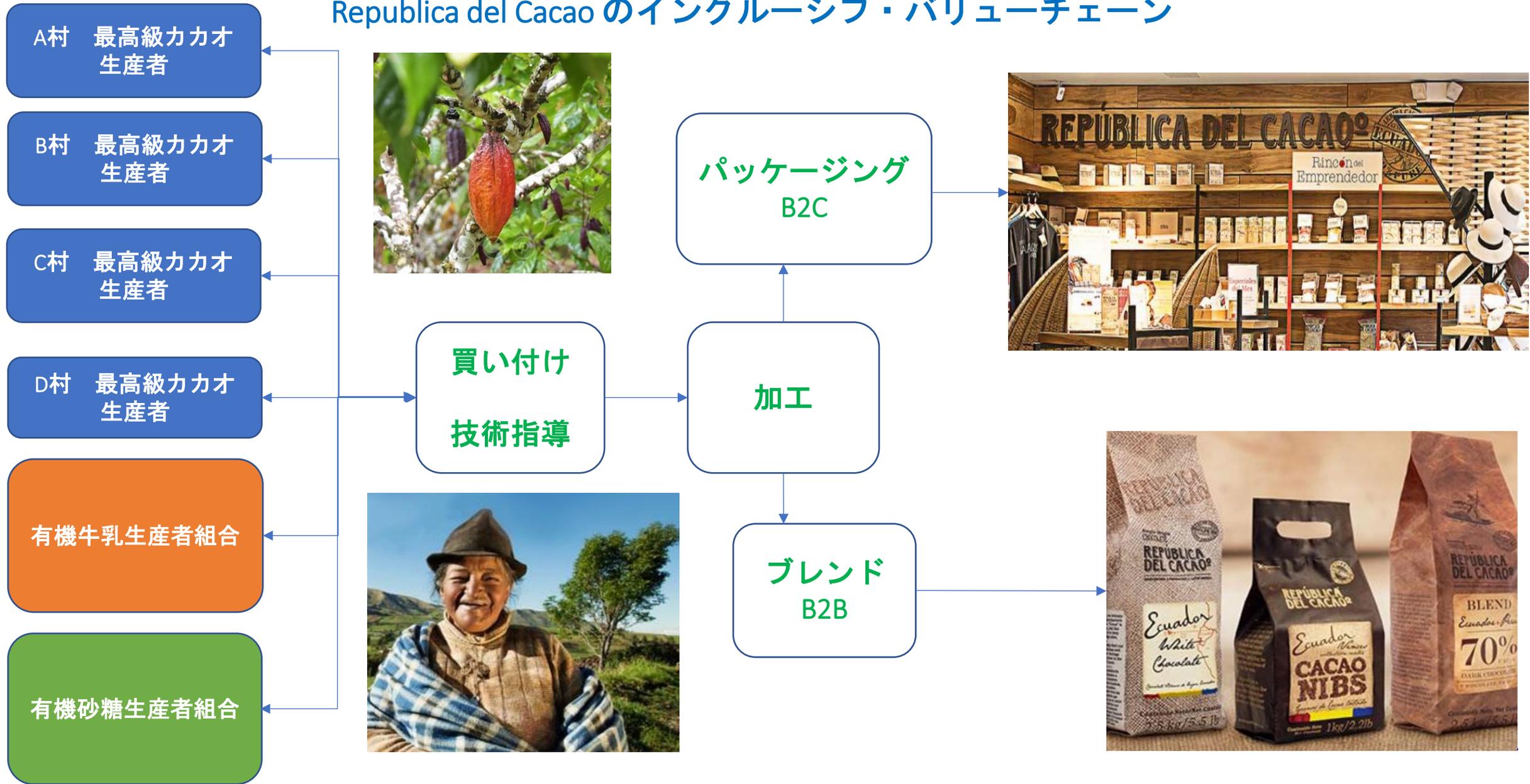
- ✓ 病気に強いコーヒーの品種改良に繋がるDNAの分析交配や遺伝資源の維持、保管への協力を歓迎する（グアテマラ、コスタリカ、ペルー）

コスタリカ（ICAFFE）とグアテマラ（ANACAFE）のコーヒー業界団体は調査・研究センター・ラボを運営。コーヒーの品種改良、栽培技術、トレーサビリティ・システム、伝染病予防などの分野で共同研究者を受け入れている。

■ インクルーシブ・バリュー・チェーンの形成



Republica del Cacao のインクルーシブ・バリューチェーン



トレーサビリティ (Traceability)

技術開発のパートナー（候補）

食品加工機器の購入

アグロインダストリー企業
食品処理工場
養殖企業
協同組合連合

技術開発、実証実験のパートナー（候補）

公共機関

Instituto Nacional de Innovación Agraria-INIA（ペルー）
Instituto Nacional de Innovación Agropecuaria –INIAP（エクアドル）
Instituto Nacional de Innovación de Transferencia en Tecnología - INTA(コスタリカ)

民間（業界団体）

コーヒー：ANACAFE(グアテマラ), ICAFE(コスタリカ)
バナナ：CORBANA(コスタリカ)
カカオ：Republica del Cacao(エクアドル)
アルパカ繊維：PACOMARCA(ペルー)
農業・畜産：Centro Tecnológico Agropecuario de Paraguay - CETAPAR（パラグアイ）

海外展開に向けた調査内容

技術・サービスの
新規性

ビジネスモデル
の具体性

事業性の調査

現地（公共・民間）検査・研究機関と共に製品・技術の有効性・費用対効果を明らかにする。
効果を実証した上で、潜在顧客の関心を掘り起こし、市場を開拓



- ❑ 製品・サービスが現地で活用される際、顧客に対する付加価値、メリットは？
- ❑ 製品・サービスを提供する上で、こういったコストが発生し、販売価額へどう転嫁されるか？

受入先の調査

製品・技術の便益が明らかであり、個々の企業に購買力があるか確認する。企業に購買力がないFVCでも、業界団体、政府機関などが企業、生産者の便益を図る目的で顧客となりうる場合がある。



- ❑ 日本企業の製品・技術に興味を持つ企業が、どの程度購買力を持っているか？
- ❑ 本来の受益者に購買力がない場合、こういったアクターが受け皿となりうるか？

パートナーの調査

製品・技術の便益が明らかかつ、ターゲット顧客が明確な場合、当該国への進出コストを調べる。
優良な現地パートナー候補が見つければ、リスクを抑制しつつアライアンスにより事業展開ができる。



- ❑ 現地で製品のメンテナンスを提供するのに、どのようなアクターが存在するか？
- ❑ 現地代理店（営業網）としてどのようなアクターが存在するか？

共同調査後の支援メニュー（例）

実証事業

製品・技術の有用性・事業性や創出インパクトについて、さらなる詳細調査が必要である場合。



- 基礎調査（JICA）
- 案件化調査（JICA）
- 普及・実証・ビジネス化事業（JICA）
- 食品流通合理化・新流通確立事業（農水省）

ネットワーク構築

製品・技術の有用性は一定程度確認されたが、具体的な受入先およびパートナーの確定までに、引き続き関係性強化が必要である場合。



- 草の根技術協力事業（JICA）
- 課題別研修事業（JICA）

ビジネス展開

現地における製品・技術展開の事業性が確認されており、第一歩を踏み出すために製品・技術の受入れや投資に対する支援を受ける場合



- 投資金融（JBIC）
- 輸出金融（JBIC）
- 海外投融資（JICA）
- 二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業（環境省）

募集概要

【参加企業】

- 5社程度（応募多数の場合は、選考の上決定）
- 原則として各社から1名

【JICAによる費用負担】

- 航空賃
- 現地での宿泊費、移動経費
- 滞在中の通訳費
- 国際協力共済会の加入経費（海外保険料）

募集資格

【ご応募いただける企業】

本調査の趣旨を理解し、調査対象5ヶ国（パラグアイ、ペルー、エクアドル、コスタリカ、グアテマラ）のいずれか（複数可）において事業進出・投資・製造拠点に関心を持つ日本企業事業会社。

所属する民間企業の内部要員であって、その経営方針について意思決定ができる経営層（代表取締役やその他役員レベル）の参加が原則。

調査日程（案）

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

← パラグアイ調査

← エクアドル調査

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

← エクアドル調査（続）

← コスタリカ調査

← グアテマラ調査

← ペルー調査

応募方法

【応募書類】

- 所定の申込書
- 登記簿（写）
- 調査団参加希望者の本人確認書類

【応募締切】

8月9日（金） 23:59 必着

【選考方法】

書類審査により選考、8月28日頃にお知らせ

【提出・問合せ先】

現地調査事務局 パデコ経済/社会開発部
山森正巳（masami.yamamori@padeco.co.jp）